

## 別紙様式3

## 平成30年度 第2回 不破高等学校活性化協議会 議事要旨

日 時	平成31年2月7日(木) 13:30~15:00
場 所	不破高等学校 ガイダンス室
出席者 (敬称略、 50音順)	<p>(委員)</p> <p>高木 淳一 不破高等学校PTA会長  竹内 治彦 岐阜経済大学教授  中川 満也 垂井町長  中村 美幸 不破高等学校同窓会役員  西川 一明 宮代地区まちづくり協議会長  西脇 康世 関ヶ原町長  丹羽 豊次 不破高等学校同窓会長  林田 力 垂井町立北中学校長(代理:和田昌俊 教頭)  原川 拓雄 垂井町立不破中学校長  藤墳 守 岐阜県議会議員  山田 直人 垂井町立宮代小学校長</p> <p>(学校側)</p> <p>内木 晃 校長  増田 泰志 教頭  川瀬 英樹 教務主任  曾根 章好 生徒指導主事  臼井 澄人 進路指導主事</p> <p>(県教育委員会)</p> <p>平野 孝之 教育総務課長</p>
議事概要	<p>○本校の今後の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の生徒発表は大変よかった。このようにしっかりと発表できるようになったところが、かつての本校と比べて評価できる点であるのではないか。また、代表生徒4名のうち、男子が3名と多かったところも評価したい。</li> <li>・今後、人口減少が進む中、中長期的展望で考えた場合、本校の確かなアイデンティティが必要になってくるのではないか。現在の規模での学校の特徴付け、なくてはならないもの、必要となるものは何かを考え、強調していかなければならない。</li> <li>・地元の現中学校3年生の本校の希望者が少ないことを危惧している。広域通信制で学び方の特徴が突出した学校があるなども一因かと考える。</li> <li>・中学校では学びにくさを抱えた生徒が多くなったが、決して学習を諦めた生徒ばかりではない。本校の少人数教育は大きなアピールポイントになる。</li> <li>・垂井町にはいくつものまちづくり協議会があり、宮代地区は地域行事などことあるごとに本校へ協力要請をしているが、他の6地区からの要請についても是非協力いただきたい。</li> </ul>

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 地元の大手企業から求人があることや内定したことを、マスコミを使って広く情報提供すれば、他の企業からの求人も増えるのではないかと。</li><li>• 今年度も保育園児とのたくさんの交流があったが、「発達と保育」の授業を受講して将来保育士を目指すという生徒はどのくらいいるのか。是非このような実習体験をした生徒が数多く保育士になってくれることを期待している。</li></ul> |
|--|--|